

市議会初 補正予算の修正案を提出

児童数が増える!? 大野田小学校

総合的な解決策を急ぐべき

今年度一般会計補正予算に対して、内山さんと子は、大野田小学校校舎増築事業5千863万4千円と、債務負担行為合わせて1億4576万3千円を削除する修正案を提出しました。しかし、賛成少数で否決され、原案が可決されました。

一方、補正予算と関係するため一括して審査された大野田小学校校舎増築計画の見直しを求める陳情は、賛成多数で採択されました。

現校舎の改修と活用で対応可能では

大野田小学校学区の人口推計によれば、平成33年をピークに今後も児童数が増加し、教室の不足が見込まれます。不足するのは1〜2教室ですが、増築案は4教室。すでに今年度から1年生は5クラスに増やしており、「〇年〇組」という学級教室が不足するわけではありません。少人数指導などの1〜2教室であれば、現校舎内の会議室の改修や、ランチルームなどの活用等で対応が可能と考えられます。

今回の増築案は、隣接する住宅にわずか2、3メートルの距離に迫るもので、採光も風通しも住民の生活環境は悪化し、物理的、心理的圧迫感に相当なものです。市民の福祉の向上のためにある公として、非常識な計画と言わざるをえません。

議案第63号平成23年度武蔵野市一般会計補正予算（第3回）に対する修正案
議案第63号平成23年度武蔵野市一般会計補正予算（第3回）の一部を次のように修正する。
第1案第1項中「233,438千円」を「174,884千円」に、「67,036,428千円」を「67,036,428千円」に改める。
第1表個人課出予算補正の一部を次のように改める。

款	項	補正前の額	補正額	計
18	雑費		134,219	834,219
		706,000	499,483	865,483
1	雑費	706,000	134,219	834,219
			499,483	865,483
歳入合計		66,861,564	234,466	67,096,030

款	項	補正前の額	補正額	計
10	教育費		51,885	7,056,087
		7,036,152	446,649	7,482,801
	小学校校舎	4,488,000	56,624	4,544,624
			174,864	67,036,428
歳出合計		85,861,564	234,466	86,096,030

第2表債務負担行為補正の一部を次のように改める。

事項	期間	限度額
大野田小学校校舎増築事業	平成30年度	67,439

子どもたちの学びの場を尊重すべき

大野田小学校校舎は、1階東側の昇降口から入ると左に特別支援学級、右に1、2年生の学級、3〜6年生は昇降口が3階で、それぞれ3階と4階の学年ごとのユニット空間で学びます。普段から学年全体の指導も多く、担任の先生方のチームワークによって、学年すべての子どもを見守る体制になっています。校舎の西の端、室内は1階部分しか通れないという増築教室は、こうした学びの場に適応していないものです。なにより学校現場においては、在校生の安

吉祥寺東町の認可保育所が白紙に

都内で保育所に関する問題が後を絶ちません。杉並では、公園に保育所を建設するという区の方針に反対運動が広がり、世田谷では保育所予定地の土壌汚染が問題に。また、品川の公設民営保育所では、事業者の不透明な経費処理問題が発端で、わずか一年で事業者が交替する事態になりました。

そして、武蔵野では、吉祥寺東町1丁目の私立認可保育所に関して、近隣住民の会から見直しを求める陳情が出されました。ところが、陳情審査のため臨時委員会が予定されていた9月20日の朝、突如陳情を取り下げ、と同時に、市長宛てに保育所開設に対する「不同意書」を提出。市・事業者との、合意に向けた話し合いの扉は閉ざされてしまいました。

来年4月を目指し準備を進めてきた事業者は、近隣住民の合意が得られず、着工が遅れ、開園できたとしても住民との関係の影響は避けられないとして、撤退を余儀なくされました。当初、待望の市東部エリアに認可保育所開設という知らせに、多くの保護者が期待を寄せただけに、落胆も大きいものでした。今後、公共施設・公有地の活用も含め、保育の場の確保が急がれます。

今回の反対理由のひとつに、保育事業に未経験の事業者であったことがありました。文教委員会質疑の中で、市は「保育のガイドライン」習得のための研修参加、保育士に市の保育所での勤務経験を課すなど、保育の質の確保に努める方針を明らかにしました。子どもと保護者にとっても、地域住民にとっても、願いは同じ、安心して子育てできる環境を整えていきたいと考えます。

全を第一に考え、学習環境への影響を最小にすべきです。今回の工事では、校庭をトラックが通過し、授業中に教室のすぐ隣で7ヶ月間も工期が続きます。夏季休業中に工事を終えることができる現校舎内の改修案が採用されて当然と思えますが、納得のいく答えはありませんでした。

子どもたちが泣いている

「ビオトープを壊さないで」

子どもたちにとって大切な教育資源であるビオトープの場所に、校舎を増築するという判断は理解に苦しみます。7月に行われた2度の説明会でも、多くの参加者から「ビオトープを残してほしい」という意見、要望が上がりました。「一度壊すがまた別の場所に作る」、「増築校舎の必要がなくなれば、元の場所に戻すこともありうる」という答えには、参加者は驚き、呆れ顔でした。

子どもたちが、自然の大切さ、生物多様性について学ぶ上で、大切にしているビオトープは、人工的に作られたものでも、子どもたちにとっては、自然環境として守るべきいわば聖域です。「おとなは自然を大切にしようと言うけれど、おとなの都合で自然を壊すんだ、また壊してもつくればすむんだ」という、ご都合主義の価値観を子どもたちの心に植えつけていいのでしょうか。



校舎増築が計画されている大野田小学校内の
ビオトープ(7月12日撮影)

そもそも、武蔵野市のまちづくりの骨格は、緑のネットワークを基軸として形成されました。昭和48年に定めた武蔵野市民緑の憲章にあるように、市民や事業者には自発的に緑を増やすよう求める一方で、教育施設の緑を壊すことになぜ問題を感じないのでしょうか。緑の憲章にうたわれた理念は、時を経ても不変の市のアイデンティティであり、市政運営の哲学であるはずです。

先を見通した総合的な対策を

当然、学童クラブ人数の増加もあり、すでに定員超過の学童クラブの部屋の確保はまったなしです。築36年の体育館の建て替えはまだ先と言われていますが、体育館棟への学童クラブとあそべえの合築、教育支援センターの見直しなどを含め、先を見据えた総合的な対策を急ぐべきです。

市は説明責任を果たすべき

7月の学校視察、住民説明会、8月の懇談会を経て、9月の委員会審査まで、資料の不足・不正確さに加えて、答弁が二転三転しました。さらに、増築部分は既存の校舎との行き来は1階のみで、2階は接続がバリアフリーにならずエレベーター設置が必要ということは、ようやく質疑の終盤で明らかになりました。

市財政は堅調であるとはいえ、根拠や説明が不十分では納税者である市民の納得は得られません。

46億円超の莫大な費用をかけた千川小学校の検証を踏まえ、技術の粋を集めて設計したはずの大野田小学校。設計段階では、児童の増加にも柔軟に対応できるとしたセンチュリースクール構想が、わずか10年で破綻した現実を、今後の学校施設整備に生かす必要があります。